

●2022年7月1日(金)20時~22時

前半の1時間は広報として、令和4年船橋市議会第2回定例会の内容のご報告。後半の1時間は広聴として、参加者の皆さんからの船橋市政に関するご質問やご意見をうかがいます。



出張りょうCafé



- 3人以上の人数を集めていただければ、石川りょうが市内のどこにでも伺ってりょうCaféを開催いたします。お問合せください。
- 日々の相談事や、船橋市政へのご意見・ご要望等は、お一人からでもいつでも受け付けています。ご都合の良い日時と場所に伺います！

*日時等の変更の可能性があるため、石川りょう公式サイト、SNS等で必ずご確認ください。

プロフィール

【学歴】

栄光幼稚園、芝山西小学校、芝山中学校、八千代高校、立教大学法学部国際比較法学科、英国国立マンチェスター大学院、早稲田大学公共経営大学院



▲高瀬下水処理場の視察へ

【職歴】

青年海外協力隊、国際連合インターン、開発コンサルタント、外務省(外交官)を経て、船橋市議会議員(現:広報委員長)

【資格など】

法学士、開発学修士、公共経営学修士、TOEFL(CBT)257点(TOEIC915点相当)、仏語検定3級、プロジェクトマネジメントスペシャリスト(PMS)、政策学校「一新塾」32期生、ビール検定2級、ふなばし市民大学校平成26年度ボランティア入門学科

連絡先

ご意見やご質問、ご要望を何でもお寄せください！

石川りょう公式サイト
http://www.ishikawaryo.net



もやっています。

発行者:石川亮
住所:船橋市芝山3-26-1
携帯電話:080-6575-4711
固定電話:047-463-2690
メール:info@ishikawaryo.net

この通信でご紹介できている活動内容は、ほんの一部です。詳細な内容やその他の活動は、石川りょうのブログを是非ご覧ください。

石川りょう アメブロ で検索! または、QRコードはこちら



石川りょう通信

Vol.42 討議資料



海老川上流地区のまちづくりが可決

これまでの石川りょう通信の中でも取り上げてきた海老川上流地区のまちづくりについて、令和4年船橋市議会第1回定例会で、その予算案が賛成多数により可決されました。これで、当該事業に対して議会がGoサインを出したことになります。私も賛成しました。

私が賛成した理由は、①船橋市の将来財政との兼ね合い、②土地区画整理事業、③まちの活気という3つの観点からです。

① 船橋市の将来財政との兼ね合い

これが当該事業の実施に関し、私がこれまで最も心配していた点です。令和3年度に公表された将来財政推計では、令和4年度以降の収支差額が毎年度50億円以上もの赤字予想となっており、そのような厳しい財政状況では、市の負担が大きい当該事業を実施する余裕はないと考えていたのです。しかし、最新の将来財政推計では状況が著しく好転。さらに、市の保有する3つの貯金にもある程度の金額が貯まっていることなどを総合的に考え、収支差額の赤字は続くものの、行政がマネージできる範囲になるであろうと判断しました(次ページにて図で説明)。

② 土地区画整理事業

船橋市が描いている当該地区の未来予想図である、医療と健康をテーマにした「メディ

カルタウン構想」については、そのイメージが曖昧なことと、どこまで実現すればメディカルタウンと言えるのか明確ではないこと、そして船橋市と地権者及び業務代行者(株式会社フジタ)との間に法的拘束力がないことから、実現できるかどうか分からないと私は思っています。しかし、土地区画整理事業としては、地権者の9割以上の賛成が取れていることから、予定されている市立医療センターの建て替えや新駅の設置、計画的な住宅地や公園、道路などの整備は進むだろうと考えています。

③ まちの活気

土地区画整理事業の施行によって、海老川上流地区は、現在の耕作放棄地や資材置場などが広がる土地から整然とした街に生まれ変わりますし、新しくできる街には活気が生まれ出され、本市全体の人口増や税収増も期待できます。街には進化が必要です。当該事業は、本市にとって、成長のためのチャレンジというポジティブな側面はあると思います。



石川りょう 委員 飛翔

船橋市の将来財政推計の好転

1. 令和3年度の将来財政推計

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
歳入総額	2,102億円	2,092億円	2,101億円	2,107億円	2,111億円	2,112億円	2,120億円	2,124億円
歳出総額	2,152億円	2,159億円	2,161億円	2,187億円	2,164億円	2,168億円	2,188億円	2,163億円
収支差額	-50億円	-67億円	-60億円	-80億円	-53億円	-56億円	-68億円	-39億円

2. 最新の将来財政推計

収支差額	0円	-24億円	-17億円	-41億円	-15億円	-12億円	-30億円	-4億円
------	----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------

3. 好転の要因

【歳入】	【歳出】	【その他】
<ul style="list-style-type: none"> 個人所得や納税義務者が増加し、個人市民税が増収 堅調に推移する企業収益等により、法人市民税が増収 新型コロナウイルス感染症対策事業の財源として、引き続き国や県からの交付金等が見込まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの行財政改革の成果が一定程度出ている。 予算要求に限度額を設定したことにより、事業内容や経費の精査が行われた。 	<ul style="list-style-type: none"> 国勢調査人口の増加(船橋市は現在も人口が増えている)などが反映された新たな基準財政需要額ベースの交付税算定 新しい公債費の借入れ見込みの反映 職員の定年延長が考慮された職員退職手当基金の運用変更など

4. 3つの貯金



令和3年度に作成された将来財政推計では、令和4年度以降、毎年度50億円以上もの収支差額の赤字が生じる見込みでしたが、最新の推計では、その赤字額が大幅に改善する見込みとなりました。引き続きの赤字ではありますが、市の保有する3種類の貯金でやり繰りする間に財政健全化に向けた努力を続けられれば、市の財政は運営できると判断しました。

石川りょうの提言

海老川上流地区のまちづくりに賛成はしましたが、今後について提言があります。

(1) 引き続きの行財政改革

将来財政推計は好転しましたが、収支差額は赤字が続きますので、財政健全化に向けた行革は継続する必要があります。高度成長期のように、あれもこれも全てやるという財政状況ではありません。何かを実施するなら何かを止める(縮小する)という「選択と集中」が必要な時代です。船橋市は、これまでに実施されてきた市長の指示によるトップダウンの行革から、各事業の担当部局による自発的な気づきや見直しから始まるボトムアップの行革

へと移行する時期に来ていると考えます。各事業の担当職員には、ご自身が実施している事業はそのままがいいのかと問い直していただきたい。今まで続いている事業だから当前に実施するのではなく、本当に税金の支出に見合った事業なのか、費用対効果はあるのかなど、根本的なところから改めて見直していただきたいのです。そして、船橋市役所はそういった意見を受け入れて改革できる組織になるべきだと思います。

(2) 市民の皆さんの声を聴かずに決める

市役所文化の改善

医療センターの移設や東葉高速線の新駅設置などを含んでいる海老川上流地区のまちづくりは、船橋市全体に影響する事業であり、しかも、多額の税金が投入される事業でもあることから、本事業に関して、船橋市にはもっと市民の皆さんと情報共有や議論をしていただきたいかと思う。地権者への説明会は何度も実施されましたが、広く市民の皆さんに向けた説明会や意見交換会はほとんどありませんでした。平成30年に実施された可燃ごみの収集回数の見直し、令和2年より順次行われた公共施設等の使用料・手数料の見直しや駐車場料金の有料化の際などにも感じましたが、市民や当事者の意見はほとんど聞かず、いつも急に決めるという印象があり、これは本市の良くない文化だと思います。積極的に情報公開を行い、市民の皆さんの意見を聞き、時には議論できる船橋市であるべきだと思います。

(3) その他

当該事業地内に移設予定の市立医療センターですが、現在のセンターは狭隘で老朽化が進んでおり、一刻も早い建替えが必要とされています。令和8年度の開院という予定通りに計画を進めることが大切です。

当該事業の成功に欠かせない要素として東葉高速線の新駅設置があります。設置費用が約65億円と見積もられていますが、現時点では、船橋市のみがこの金額を負担することになっています。国の補助や事業者との折半など、あらゆる可能性を調査検討して、市負担の軽減を図るべきです。

当該事業地の南側には、千葉県が施工する海老川調節池の建設が予定されています。本調節池は、当該事業地を含む海老川流域の治水対策として重要な計画です。計画策定からすでに40年以上が経過していますが進展がありません。船橋市はこの早期実現のため千葉県に対して強く働きかけ続ける必要があります。

改めて、「海老川上流地区のまちづくり」とは？

組合施行(民間)による土地区画整理事業。米ヶ崎町、東町、高根町などを含む42.3ha(右の図の赤い斜線部分)が事業地。市立医療センターの移転建替え、東葉高速線の新駅設置が計画されており、それ以外は商業地や住宅地をはじめ、都市計画道路や公園、調整池などの公共施設が整備される予定。船橋市は医療や健康をテーマとした「メディカルタウン」としてのまちづくりを目指している。

事業期間：令和4年3月4日～令和15年3月31日
 総事業費：約191億円(うち約56億円が市負担)
 新駅設置費用：約65億円
 医療センター整備事業費：約437億円

